



サイジャーナル

月刊
3-1-2
第455号

日本サイ科学会 令和3年1月1日発行

本部 〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 郵便振替 00100-2-15344 日本サイ科学会
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp

東 北 〒981-0904 仙台市青葉区 旭ヶ丘1-36-1 アサビル201号 佐佐木 康 二 ☎ 022 (279) 0908・FAX 022 (274) 0097	中 部 〒455-0053 名古屋市港区 名四町113 眞 野 博 英 ☎ 090-9196-2963	北 陸 〒920-0031 金沢市広岡2-7-25 プレミスト金沢駅西口1 804号 佐 藤 禎 花 ☎ 076 (234) 2034	関 西 〒545-0034 大阪市阿倍野区 阿倍野元町1-2 和 田 高 幸 ☎ 06 (6624) 0509・FAX 06 (6624) 5061	九 州 〒851-2122 長崎県西彼杵郡 長与町本川内16-6 森 安 政 仁 ☎ 095 (883) 6048・FAX 095 (883) 6159
--	--	--	---	---

年頭のご挨拶

会長 浪平 博人

新しい年を迎えるにあたり、日本サイ科学会の発展と皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



昨年はコロナの蔓延で異常な年でした。日本の被害は世界に比べれば数値的には軽いほうなのですが、それでも社会への影響は甚大でした。コロナ自体の害に加えて、それが揺り起こした情報技術(AI、IoT)の影響が今後の社会を変えていく可能性は計り知れないものです。

情報技術がもたらすものの本質は、これまで我々の社会では当然であった場所・時の制限を取り払

ったことです。会議をするにも、時間を合わし場所を確保し全員がそこに移動する必要がなくなりました。これだけで、移動を前提とした社会基盤すべてが変わってきます。すべてが同時に変わるので、非線形な激変になります。日を経るにつれ、巨大なうねりとして襲ってくるでしょう。

情報技術は人類自らが創り出したものとはいえ、人類はこのような文化・文明を変えるほどの急激な変化に耐えるのでしょうか。これに関連して、自分たちの得た大きすぎる殺傷能力を抑えるための適切な対処方法を生み出したものとして、オオカミの儀式が思い出されます。オオカミは強力な攻撃力での種族間の殺し合いを抑えるために、自分の弱いところを相手に見せると相手は攻撃できなくなるという一種の儀式を生み出しました。相手が首を見せると決して攻撃しないのです。

人類は、オオカミが進化の過程で生み出した平和の儀式を謙虚に

今月号の記事

- ◎ 年頭のご挨拶
- ◎ 御寄付御礼
- ◎ サイジャーナル復刻版第1巻と佐々木茂美名誉会長の最新著書販売開始
- ◎ 関西サイ科学会一月研究会、二月研究会のお知らせ
- ◎ 占星学と運命創造学の研究分科会からのお知らせ
- ◎ 令和元年6月本部例会の報告Ⅱ
- ◎ 第四五三回関西サイ科学会報告
- ◎ 第11回スピリチュアル研究分科会の報告
- ◎ 念写を実現する為に(その3)

学び、無制限な情報技術の進化に制御の枠をかける知恵に気付いたものです。
変化の波にできるだけ早く順応し、皆様の事なき年を祈ります。



◆ ◆
新型コロナウイルス第3波により、一月の「第6回占星学と運命創造学の研究分科会」と二月本部例会は延期、休止となります。
また、三月は本部例会通常の休会となります。四月以降の本部例

会、分科会につきましては次号と公式サイトでお知らせ致します。

「心を科学する博物館」と

一般の御寄付御礼

(12/10受領分まで)

金二十五万円也 匿名様
金一千円也 久保田昌治様



★サイジジャーナル復刻版第1巻
[創刊号(1976年1月号)~第15号(1977年3月号)]販売開始のお知らせ
価格 1000円(税別)

【購入方法】

購入方法は以下の2つの方法があります。

(1) Amazonで「日本サイ科学会」で検索をかければ、書籍が表示され、注文できます。

(2) 一般書店で購入する方法
書店に左記書籍情報を伝え、注文してください。

※プリント・オン・デマンド出版のため、店頭には並んでいません。

※書店によっては扱えない場合もあります。

【書籍情報】

・ ISBN : 978-4-8150-2308-9
・ 書名 : サイジジャーナル (PSI)
復刻版第1巻
・ 著者名 : 日本サイ科学会
・ 出版社名 : デザインエッグ社

★佐々木茂美先生の
新刊本2冊のご紹介

◎佐々木茂美・苗鉄軍著「心と物質(念写と透視)」
電子書籍 (Kindle版)
価格 1000円(税込)

◎佐々木茂美著「サイ(気)の計測と実用化」
電子書籍 (Kindle版)
価格 2500円(税込)

・ 紙の本(デザインエッグ社発行、Amazon POD版)
価格 1280円(税別)

※いずれの書籍もAmazonで「佐々木茂美」で検索すればヒットします。

関西日本サイ科学会
一月研究集会のお知らせ

どうなる2021年、そして
近未来社会は、新しい文明の
始まりを予感す

講師 水口 清一氏

日時 令和3年1月16日(土)
13時30分~17時(開場13:15)

会場 阿倍王子神社参集殿
交通 ・ 阪堺電軌上町線「東天下
茶屋」駅下車徒歩5分

・ 大阪メトロ御堂筋線「昭
和町」駅から徒歩15分

・ まつむし音楽堂から阿倍
野筋沿いに徒歩10分

会費 会員及び同伴の家族二千円
一般三千円(初回参加者二千円)

学生一千円
懇親会・場所未定 会費三千円
定員15名

問合せ06・6624・0559

※関西日本サイ科学会の公式サイ
ト申し込みフォームから、事前
予約願います。

関西日本サイ科学会
二月研究集会のお知らせ

宇宙の響きで生きる「ゼ
口磁場発生装置」の神秘

講師 上森 三郎氏
(一級建築士、ネオガイヤ株式
会社代表取締役)

日時 令和3年2月20日(土)
13時30分~17時(開場13:15)

会場 阿倍王子神社参集殿
交通 ・ 阪堺電軌上町線「東天下
茶屋」駅下車徒歩5分

・ 大阪メトロ御堂筋線「昭
和町」駅から徒歩15分

・ まつむし音楽堂から阿倍
野筋沿いに徒歩10分

会費 会員及び同伴の家族二千円
一般三千円(初回参加者二千円)

学生一千円
講師を囲む懇親会(17:30~19:30)
会場未定 会費三千円 定員10名

問合せ06・6624・0559

※関西日本サイ科学会の公式サイ
ト申し込みフォームから、事前
予約願います。

★占星学と運命創造学の研究
分科会からのお知らせ

令和3年1月17日(日)に開催が予定されておりました「第6回占星学と運命創造学の研究分科会」は残念ながら、新型コロナウイルス第3波により、本年8月以降に延期されることになりました。

これにより、参加者の皆様にお伝えする予定であった、様々な情報を早くお伝えすることができなくなりましたので、令和2年12月21日(木星と土星が水瓶座で会合)から配信が始まりましたメールマガジン「アストロハーモニック通信」(毎週月曜日に希望者のメールアドレスに無料配信)で、お伝えしていく所存です。

過去の分科会参加者にはすべて配信致しますが(配信停止はいつでもOK)、参加していない方も配信希望を歓迎致します。

office21@psi.mail-box.ne.jp宛てにお名前と「占星学のメールマガジン希望」と書いて送信願います。

「アストロハーモニック通信」の
主な内容

- ・運命創造学に基づく指針
- ・アストロハーモニックチャートによる翌週の社会全体運診断(占星学的六曜)
- ・瀬尾泰範の今後の予測・社会情勢批評、読者からの質問に対するお答え(随時)
- ・西洋占星学とハーモニクス理論の基礎からのレッスン等です。

令和元年6月本部例会報告Ⅱ

マイクロPK現象の検出
メカニズムについて

講師 小久保 秀之氏

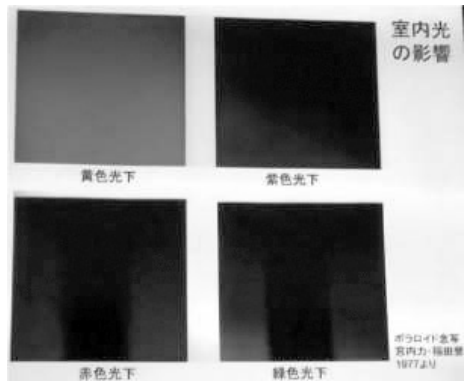


念写をするときに、周りの環境が影響することが分かりました。こちらは清田益章さんの連続8枚念写写真の内の4枚です。

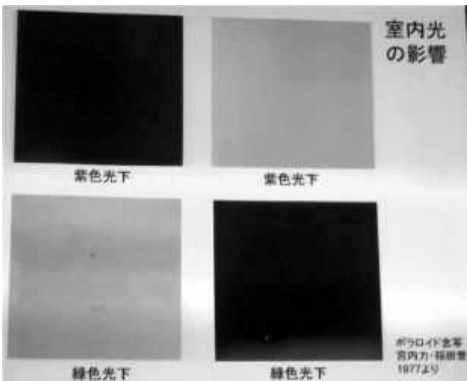


これを実験したのは笠原敏雄先生ですけれど、本当は真っ暗な所なんです、ポラロイド写真に光が一杯写り込んでいます。

念写の研究は宮内力氏とか稲田豊氏が一生懸命されておりまして。これはポラロイドフィルムへの念写ですが、室内光の影響を受けるらしいということが分かりました。以下の写真は天井にカラーセロファン等を使って、部屋の灯りの状態を変えたら、念写にどう影響するのかを実験したものです。

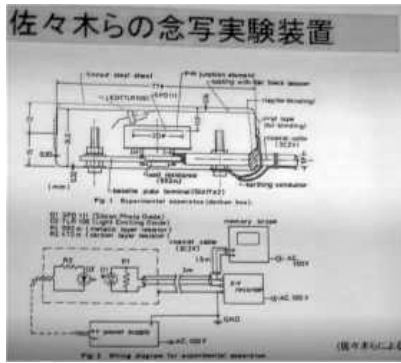


それぞれ黄色光、紫色光、赤色光、緑色光の下での写真を見ますと、室内光の色に影響を受けておられます。



ところが念力を発する被験者の調子が良いと、右の写真の紫色光や緑色光の下での写真のように真白になって、環境の効果は見えなくなりません。ですから、念写の程度が弱いときは環境の影響を受けていることが分かります。

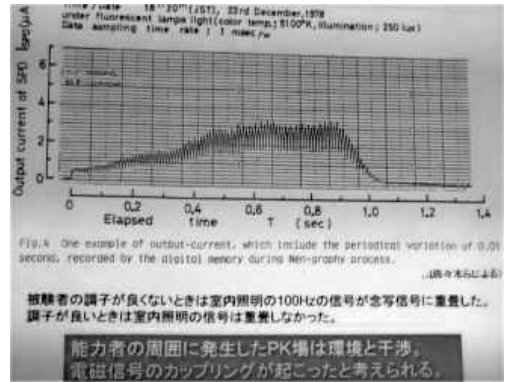
次に佐々木茂美先生の念写実験をご紹介します。いただきます。



太陽電池の装置を使った念写の実験においても、同様な結果が報告されております。

次のグラフは横軸が時間(秒)、縦軸が太陽電池の電流値(μA)ですが、念写信号の波形が記録されております。

被験者の調子が良くないときに



は、念写の大きい波形の上に細かいシグナルの波形が見られますが、これは室内照明の100ヘルツの信号が念写信号に重畳したと考えられます。被験者の調子が良いときには、室内照明の信号は重畳しなかったことが分かっております。それは、超能力者の周囲に発生したPK場が環境と干渉して、電磁信号のカップリングが起こったと考えられます。

この方は1970年代から80年代にかけて、イギリスのロンドン大学で少年、少女達のスプーン曲げ実験・研究をしたヘイス

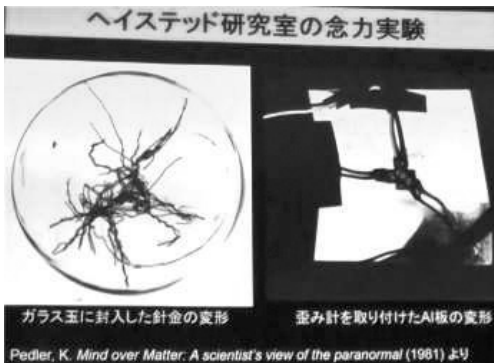


テッド博士です。これがその当時のスプーン曲げの写真です。



スプーンのお皿のところまで曲がっています。スプーンの首のところは、てこの原理で私でも曲げたり、1回捻りくらはいはいはできませんが、皿のところを曲げるのは、ちよつとできないですね。ですから相当PK能力の強い被験者が沢山いたことが分かります。

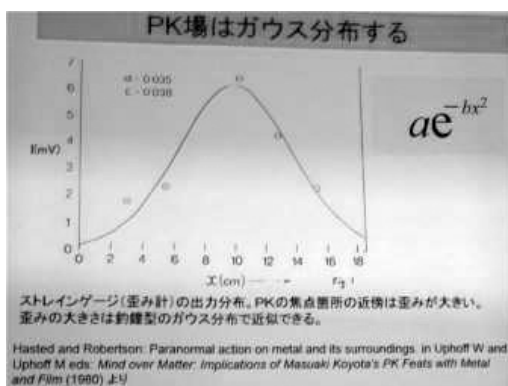
その他にも、ヘイステッド博士のところでは、いろいろな実験が行われています。ガラス玉の中に針金を封入しておいて、それをガラス玉の外から念力で、写真のように絡ませるのです。



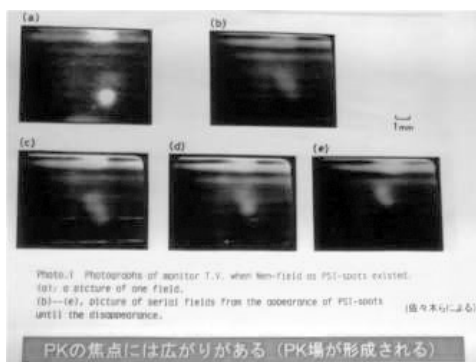
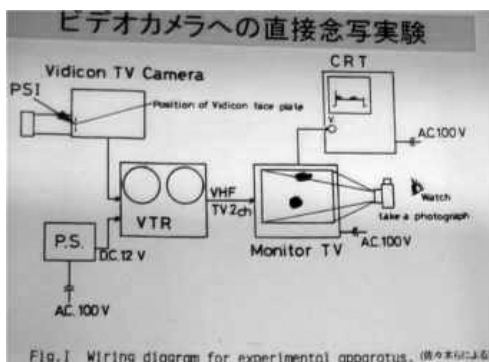
また、特定のアルミニウム板に歪み計を付けて、曲がるときにど

ういうふうにとどのくらい曲がるのかということ測定するということ、定量測定も行われています。

いろいろな被験者に様々なセンサーの付け方をして実験しております。横軸が距離（cm）、縦軸が歪み計の電圧（mV）ですが、PKの焦点箇所近傍の歪みが大きくなっており、その結果次のようなガウス分布で近似できると報告されております。



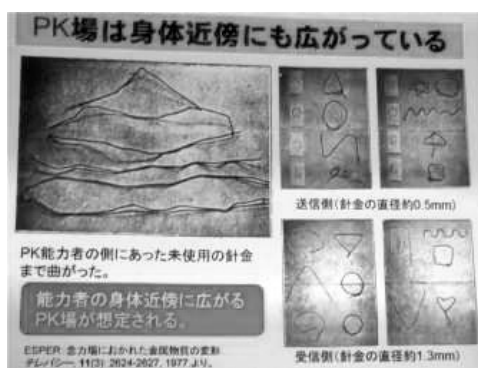
次の図は、佐々木茂美先生のビデオカメラへの直接念写実験の装置です。



右の写真は論文集「サイ科学」に掲載されておりますが、こういう

うふうに念玉が写っております。この光の玉のようなものは、実際に光が発生したと解釈する方法と、撮像管の表面で電気的な状態が変わったのだと解釈する方法があります。取りあえず、そこに念力のフィールドができています。念玉は極小な単位ではなく、ある程度の大きさをもって、この場合は写っております。PKの焦点には広がりがある、すなわちPK場が形成されるところは、ハイステッド博士の実験と同様な結果が出ております。

これは新潟の市村俊彦氏が主宰されていた超心理研究会の機関誌



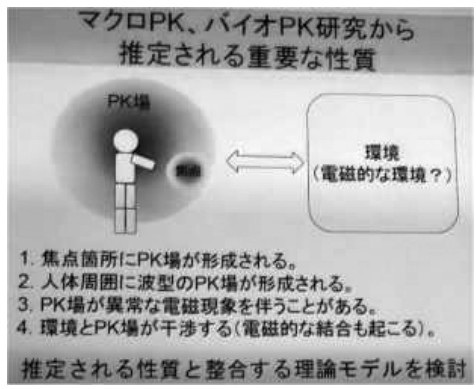
「テレパシー」に掲載されていた針金曲げの実験です。

東京にいるPK能力者(清田益章氏)に新潟から何種類かの針金の形を毎回テレパシーで送ります。PK能力者がその形を受けて、イメージしながら針金を上に放り投げて、念力でそれとほぼ同じ形に針金を曲げて落ちてくるという、お遊び的な実験でした。

そのとき、PK能力者の側にあつた針金まで触らずに曲がってしまったことが報告されています。つまり「曲がれ!」と言って放り投げた針金が曲がるような強い能力が発揮されているときは、投げた針金にPKの焦点があつたいたとしても、それ以外にも身体の周囲の場に、念力の作用が及んでいるといえます。

- マクロPK、バイオPK研究から推定される重要な性質を述べます。
- 1. スプーン曲げや念写の焦点箇所数ミリから数センチのPK場が形成される
- 2. それと同時に能力者の周囲に波型のPK場が形成される
- 3. PK場が異常な電磁現象を伴

うことがある
4. 環境とPK場が干渉する
(電磁的な結合も起こる)



こういうマクロPK、バイオPKの研究から、重要な念力の性質が推定されますので、乱数発生器に対して、どうやって念力が作用しているのかにつきまして、以上の現象と矛盾のない、これらの性質と整合する理論モデルを考えてみたい。
いきなり量子力学の観測問題を持ち出して、観測したときに状態が決まるんだと言っても、こういうことを説明できないので、説明できるものがほしいのです。

さて次に乱数発生器につながる
J. B. ライン博士の実験ですが、統計的な手法を使った念力の検出になります。J. B. ライン博士

が著書「超心理学概説―心の科学の前線」を出版した後、非常に有名になり、ラスベガスのギャンブラーがライン博士を訪れました。彼は、「私はサイコロの目をコントロールできる」と主張したのです。ライン博士は興味をもって、サイコロを使ったPK実験を始めました。初期の頃は、直接6個のサイコロを投げる方法、その後機械的にサイコロを投げる方法、さらに電子回路でサイコロを投げる方

統計的手法によるPK検出

J.B.ラインをラスベガスのギャンブラーが訪問。サイコロの出目を念力で制御できると主張。サイコロを使ったPKの研究が始まる。

- 直接サイコロを投げる方法。
- 機械的に投げる方法。
- 電子回路でサイコロを模した方法。

雪崩装置を使った方法。乱数発生器(RNG)を使う方法。

法を使いました。
1980〜90年代は、パチンコ玉を使った雪崩れ装置を使った方法、その後電子的な乱数発生器



を使って、念力で光を右回り、あるいは左回りに回転させる装置もできました。

この後、電気的な乱数発生器を使ったフィールド意識の長期定点測定についてお話しします。

フィールド意識の長期定点測定

- 国際総合研究機構(IRI)の上下階には韓国系カルト教団の施設があった。
- 土日には信者の子女も含めて数10人規模の行事。
- IRIの実験室にRNGを設置すれば、上下階の宗教行事に伴う集団の意識同調の週変動を測定できる可能性があった。

宗教施設	
測定地点 IRI	歯科医院
宗教施設	
宗教施設	
コンビニ	

私が前におりました国際総合研究機構は、雑居ビルの4階にあったのですが、その2階と3階の半分と5階に韓国系カルト教団の施設がありました。その教団のフィールド意識に焦点をあてることになりました。(続く)



第四五三回関西日本サイ 科学会研究集会報告

人生の質を高める『魂』リー ディング

講師 橋本 和哉氏

(医療法人春鳳会理事長、はし
もと内科外科クリニック院長、
医師、医学博士)

日時 11月21日(土)
会場 阿倍野市民学習センター

初めて会った人なのに以前にも
会ったような気がする、そんな経
験をおもちではないでしょうか？
それはあなたの「魂」が過去世に
おいて既に何度か会っているから
かもしれない。「魂」はあなたの
奥深い無意識のなかで相手の「魂」
を感じ、気のおけない仲間かそう
でないのか？まで瞬時に見分けて
いるのです。また幼い頃からピア
ノがうまく弾けるなど驚くような
才能を発揮する子どもがいますが、
これは過去世で何十年もピアノを
弾いていたことを「魂」が覚えてい
るからでしょう。才能とは何なの

か、ここからうかがい知ることが
できます。

「魂」には何世代にもわたる過
去世の歴史など莫大な情報が刻ま
れています。もし「魂」の情報を
読み解くことができたなら、人生が
生きやすくなりますし、その質も
きつと高まるにちがいありません。
どんな仕事に向くか？誰を雇え
ば良いか？誰と仲間になれば良
いのか？などが判断できて良い
ことづくめです。

講座では、「魂」リーディングに
より上手くいった症例を紹介しま
す。また実習を交え、「魂」リー
ディングについて解説します。さ
らに「魂」を複数個持っている人
「魂」を身体から出したらどうな
る、「魂」の大きさ、「魂」が喜ぶ事
と私が喜ぶ事には微妙にずれがあ
る、「魂」は宇宙を遍歴する、神の
分け御霊(みたま)、など総合的な
見地から、「魂」とは何か？を考
え、どのようにしたら健康でイキ
イキと生きられるのか、について、
実習を交えて講演していただきま
した。

講師のプロフィール
橋本和哉(はしもと・かずや)氏

大阪府生れ。大阪大学医学部大学
院修了。医師、医学博士。医療法
人春鳳会理事長、はしもと内科外
科クリニック院長。内科、神経内
科、漢方などを専門とし、臨床に
医療ヨガや気功を取り入れ、独自
に開発した気当て診断、天賜気功
で原因不明の疾患に対処やスピリ
チュアルな診療もしている。

神経学会専門医、東洋医学会専門
医、内科学会認定医、温泉療法医、
NPO癒しと健康ネットワーク理
事長、日本サイ科学会理事、関西
日本サイ科学会副会長、ホリステ
ィックスピリチュアル医学研究会
理事。

著書に、「医師が語る霊障」(創芸
社)、ほか医療ヨガに関する本な
ど多数。

(講演内容)

スピリチュアルな世界では「魂」
と言う言葉がしばしば出てきます
が、たいていは自分自身の心のこ
とや、ハイヤーセルフと言ったり、
自分の本質と捉えています。

「魂」の定義自体があいまいな上
に様々な解釈がありますが、ここ
では私(橋本)が、「魂」と意識して
気当て診断をした胸あたりにある

エネルギー体を魂として話を進め
ます。

「魂」をチェックするには「魂」
と意識して「気当て診断」をしま
す。「気当て診断」法とはコウモリ
が超音波を当てた跳ね返りで物を
探るように、「気」(意識エネルギー
)を当てて何があるかを探る方
法です。

探りたい物をイメージしながら
対象物に気を当てると、共鳴が
あれば気が跳ね返ってくる感じ、
共鳴がなければそれがありません。
癌やウイルスなどの身体のこと
と、感情やトラウマ、霊、気パワ
ースポット、食材の良し悪し、相
性など、何を意識するかで、いろ
んな分野で応用できます。詳しい
内容については、気当て診断法
(<https://kate-shindan.com/>)を
参照願います。

胸のあたりでチェック反応があ
り「死後も残る」、「輪廻転生をす
る」、「私」という意識とは別物で、
「魂」には「これまで生きて来た記
憶がある」、などの反応があるよ
うに思われます。

まずは「魂」の大小で検討でき
ることがあります。

「魂」の大きさは、肉体の胸かそれより少し大きいのが一般的です。患者さんを診療していて思いますが、しばしば「魂」の小さい人がおられます。

一般に「魂」が小さいとき、その人の「魂」は喜んでおらず、辛い、またストレスの多い生活をしている人は「魂」が小さくなる傾向があります。時にものすごく小さい人がいますが、それだけ辛い人生を送っているのかもしれない。

中には規律的な生活をして、人のお役に立っている人でも、それが良いことだと思ってるやっている人などに「魂」の小さな人がいます。規律的な生活も、「魂」のレベルでは本当に良いのかと疑問に思っています。

逆に、「魂」が大きい人は、充実したワクワクした生き方をしていられると思います。その人が喜び、また充実感のある時に「魂」は大きくなる傾向があります。

しかし、生理的あるいは肉体的な喜び、例えば美味しい物を食べたとか、美しい男女と接して喜んだとしても「魂」は大きくはならないようですが、「魂」が喜ぶと

はどういうものかを考えなければなりません。

たいていの人の「魂」は胸の中心にあるのですが、ごくたまに中心から左右のいずれかにずれた「魂」をもつ人がいます。会場にもそのような方がおられました。

「魂」がその人に入るのを躊躇（ためら）っているケースもありましたが、それは「魂」がその人の肉体的エネルギーを嫌がっていると考えられるでしょう。また、憑依など、他の「気」エネルギーに押されているケースもありました。この場合は、押している「気」エネルギーを修復するだけで「魂」は中心に戻ります。

「魂」には、年齢というのもあります。「魂」の年齢を「気当て診断」でチェックして分かったのは、五千年くらいだと若い方で、一億五千年から二億年となると齢をとっていると判断できるのです。「魂」の若い人ほどいろいろなことに挑戦したがる傾向があり、「魂」の年齢が高い人ほど「魂」の知恵や知識は多いと判断されます。また、「魂」の傷をチェックしたら、反応が見られることがあります。おそらく、

「魂」が攻撃されたり、「魂」を入れていた人が辛い経験をしたのかなどと推定されるのですが、「魂」の年齢の高い人に多い傾向があります。そういった場合には「魂」を癒すエネルギーが必要かと思われま

す。チャクラとはヨガでよく言われるエネルギーセンターのことですが、会陰部にある第一チャクラから順に身体のセンターを上がり、頭頂にある第七チャクラまで達します。そのようなチャクラと「魂」は繋がっているのではないかとと思われる現象があります。

「魂」の位置をチェックして、その場所の「気」エネルギーを両手で掴み前方に出すと、第一から第七までのチャクラも繋がって前方に出ます。「魂」を出している時間が数秒ならあまり問題ないのですが、20秒を超えて長くなると全身の気エネルギーが低下してきます。おそらく「魂」はチャクラからエネルギーをもらっているのではないかと思われま

す。会場でも「魂」を前方へ出す実習をしました。おくことは危険と考えられます。そのような訳で、「魂を前方に出す」をさらに進めて、「魂が抜ける」とどうなるか？を文献的に検討しました。

死んだら「魂は抜ける」と言われます。それを逆手にとって「魂が抜けると死ぬ」とよく言われます。しかし、文献上からみて「魂」は死なないと思われま

す。シャーマンが「魂」を出して霊界などで神や霊に合うことは、文献的にも知られていますが、一般の人でも、びっくりしたり、高い所から落ちるなどで「魂」をどこかに落とすことがあると言われてい

ます。こうした脱魂現象については、沖繩では「魂」は「マブイ」と呼ばれよく記載されています。脱魂状態では、意識はぼんやり、倦怠感、眠い、微熱などの症状があり、ユタの呪文○○（人の名前）のマブヤー ウーティークヨー」で抜けた魂を拾いに行くと言われてい

ます。さらに興味深いことに、落とした「魂」を拾って戻すと先ほどの症状が直ぐに改善するのだそうです。

ところで、亡くなった人の写真では「魂」はどうなっているか？

ですが、生きている人の写真には「魂」の反応があります。これには異論はないと思います。

人が死ぬと「魂」は肉体から抜けると言われますが、では、死後、その人の写真からも「魂」の反応は消えるのでしょうか。「気当て診断」をすると、亡くなると生前の写真からも「魂」は抜けていると判断されます。作家の太宰治や夏目漱石の写真では「魂」の反応が消えています。不思議なことに亡くなってからの写真にも「魂」の反応がある人も居ます。たとえば念写研究された福来友吉博士は死後の写真にも魂の反応があります。これが何故、どのような意味があるのか、についてはまだ自分なりに納得のいく説明はできていません。

複数の「魂」を持つ人もいました。一般の人は「魂」を一つ持っているだけですが、ごく稀に「魂」を2個以上持っている人がいます。どういう意味かは症例経験が少なく未だよく分かっていませんが、いろいろなことに興味を持って活動されている人に興味を持って魂が入りこんだのでは？とっています。

どこで生まれた「魂」か？は適応障害を考える上で役に立ちます。その人の「魂」が地球で生まれたか、あるいは地球外の宇宙で生まれたか、についてですが、地球生まれの「魂」の場合はここが地球なのであまり問題になりません。宇宙生まれの「魂」は地球での適応障害が問題となります。特に地球への転生回数が少ない場合は「魂」が地球のことを全く学習していないが故に、地球に馴染めず適応障害、自閉症を起こしがちです。

よく「インディゴチルドレン」は地球を救うためにこの地球にやって来たと言われ、そのような人もいますが、多くのケースでは、地球に馴染めないで悩んでいて、ご本人もその理由が分からないのです。

そのようなケースでは、初めて地球に転生した「魂」である事を知ってもらい、地球での対処法を伝えています。

ここで、「魂」の再会回数に移ります。皆さんも経験があると思いますが、皆さんも経験があると思うのですが、初めて会ったのに初めて会った気がしない、まるで同窓会でもしているような雰囲気にな

ったことがありますか？ たった一度会っただけなのに初めて会った気がしない人がいる。その理由は、すでに過去世で何度か「魂」が会っているからです。逆に過去世で会っていない人とは、今世で何度会っても疎遠な感じがするものです。

人に会う場合は、その人との「魂」の再会回数をチェックしてみると興味深いことが分かります。一般に「魂」の再会回数が多い人ほど懐かしさも倍増します。また再会回数がそれほど多くなくても親しくすごした過去世があれば懐かしさが生じます。ただし、ごく稀に、再会回数が多くても敵対している「魂」もあるので注意が必要です。

このような事実を応用すれば、協力者を「魂」の視点から選ぶことができます。過去世で複数回会った人から協力者を選べば、馴染みややすく事細かに説明しなくてもお互いに分かります。その後に性格や適性などを検討すれば、共に働く時にもしつくりくるし、長く勤めてもらえる傾向にあります。もし、過去世に会ったことがない人を選ぶと、同じように働いて

いてもいつまでも疎遠な感じがするので、雇われる人も雇う人も楽しくないと思います。

ちなみに私の「はしもと内科外科クリニック」では人を採用するにあたりまずは写真で「魂」をチェックします。そのためか私のクリニックでは和気藹々とした雰囲気が出ていて、働くのが楽しいと言う職員もいます。

才能も、「魂」を読み取ることで分かります。才能が有る人は大して努力しなくても物事を達成してしまいます。逆に才能がない人は同じ成果を出すにもかなりの努力を強いられます。例えば3歳くらいでピアノをスラスラと弾ける子どもがいます。「魂」の観点から、才能とは過去世で、そのことをどれだけやったか？ということと思われます。

たとえば、日本人は英語を喋るのが得意でないことが多いのですが、中には英語がペラペラの人もいます。そんな人は大抵、「魂」が過去世で英語を喋っていた記憶があるのです。

このように過去世でおこなった回数が多いほど、努力少なく達成できるし、逆に、過去世でやって

いないことをするには、かなりの苦勞が必要なのです。適職を検討する場合、過去世でそのことをおこなったかどうか、をチェックすると生きやすくなります。進路指導相談では「魂」をベースに進めるのがよいのではないのでしょうか。

「私」と「魂」との関係も見ておきましょう。

「魂」とは何か？ といった根源的な質問に答えるのはかなり難しいですが、一般的に、生き生きと充実感のある時は「魂」も大きくなります。

一方、「魂」が喜んでいても、「私」にその意味が分からない時があります。以下、私(橋本)の体験ですが、「魂」だけが喜び「私」がよく分からなかった例です。

橋本の「魂」が喜ぶ仏像を検討したところ、出てきたのが、興福寺 東金堂 維摩居士でした。橋本、本人は写真でこの像を見ても別に喜びはなく、何のことか分からないというのが正直な感想でした。実物を見たら違うのでは、と奈良県興福寺に実物を見に行きました。

結果、実物を見ても「私」の意識ではよく分からなかったのです

が、私の「魂」は大きくなり確かに喜んでいました。きつと「魂」に刻まれた過去世において何かあったのだろうと思います。

また、「魂」が喜んでいても、「私」には分からない例として「第3の涙」があります。大自然を見たときとか、聖なるものを見た時とか、悲しい、嬉しいを遙かに超えた次元で、「私」はその理由がよく分からずに涙を流すといった現象です。このように「魂」の喜びと自分の喜びが違うこともあることから、少なくとも「魂」は「私」という概念のものとは異質と思われまます。「私」は個を維持するための便宜上の意識であって、「魂」は「私」に乗っかっていろいろな経験をすることも、たとえばタクシーの運転手が「私」で、「魂」は乗客との解釈が今の時点ではしつくりするようです。今後も「魂」に関する知見を集め、これをさらに拡げて検討すべきであると考えます。

さて、「魂」を喜ばせて生き生きと生きる方法ですが、先ずは意識して生き生きと充実感のあることを実行すれば良いでしょう。これは既に解説した通りです。

さらにここでは簡単に出来る方

法をお伝えします。一つは愛する人と向き合ってハグすることです。背後からハグしても効果は減弱します。

それから「魂」の小さな人には「魂振り」を勧めています。神道では「魂振り」という言葉があるので、ここでは橋本独自のやり方をお伝えします。

上下の起伏を起こしながら、物理的に左右に身体を振るよう指導しています。ちょうど赤ちゃんを振ってあやすのと似ています。そうした踊りをする「魂」は大きくなることを体験的に知りました。ひと通りの実習と解説を終えてから、講演の最後に公開で個人相談をしました。相談事のある参加者に前のフロアに出て来てもらい、その相談に私が答え、これを観てもらおうといった実習です。人材の採用やパートナーとの相性などの相談に、数名の方が出て来られました。

雇用するにはどうか？ 複数の候補者の写真から、「魂」の関係をベースにチェックして最適の人材をアドバイス。また、交際相手についても写真をもとに「魂」の関係をベースにチェックしてアドバ

イスしました。「魂」に「気当て」してその反応を診断する人生相談も行いました。

転居についての質問もありました。「魂」に「気当て」したら良いとの反応あるのですが40点くらいと鈍い。よくよく尋ねてみると、親御さんが今の住居の近くに居て、引越すると遠方になるのでどうするか悩んでいるようでした。親のことや仕事をどうするか、などもうすこし明確にしたらまた相談をされるよう伝えました。他の公開個人相談も行いましたが、記憶に残っているものだけを記載させていただきました。

コロナ対策を万全にしてください。た。その皆様の、ありがたうございました。

第11回スピリチュアル研究 分科会報告

人生に奇跡を起こすサレンドーの法則

講師 刀根 健氏

刀根 健氏のプロフィール

略歴

OFFICE LEELA (オフィスリーラ) 代表。

東京電機大学理工学部卒業。大手商社勤務を経て、教育系企業に。心理カウンセリングの資格取得コースの開発や人事部門での教育・研修・制度開発を担当。

研修会社へ講師として転職し、防衛省や国土交通省など官公庁を始め、NNTなどの企業や病院を中心にコミュニケーションやリーダーシップ研修を通じ2万人以上の指導を行う。

また、ボクシングジムのトレーナーとしてもプロボクサーの指導・育成を行い、3名の日本ランカーを育てる。

癌になったのを契機に2018年に「独立」、OFFICE LEELAを設立、現在に至る

著作

「僕は、死なない」ソフトバンククリエティブ 2019年

「ストローク・ライフのすすめ」

フォーメンズ出版 2008年

(講演内容)

2016年9月1日、僕は「肺癌ステージ4」の宣告を受けました。

自分的には何の不調も感じておらず、たまたま見つかった心臓の不整脈からの検査で発覚したのです。

しかし、癌が見つかったとき、もうすでに肺の中だけでなく、肺のリンパや骨にも転移があり「ステージ4」の状態でした。

ドクターに「治りますか？」と聞きましたが「治りません」と答えられました。

そして「肺癌は癌の中でも難しい病気で、抗がん剤が効く可能性は4割」と告げられました。

「6割は効かないのですか」

「はいそうです。そしてがん細胞は抗がん剤に必ず耐性を持ちますから、いずれ効かなくなります。そうなったら、また抗がん剤を変えます。その抗がん剤も効く可能性は4割です」とのことでした。僕のがん細胞から採取した遺伝子には特殊な遺伝子はなく、通常の抗がん剤しか適用できないとのこと

でした。

僕はいろいろと悩んだ結果、「治らない」と言っている治療は受けないことに決めました。

通常の抗がん剤治療を受けると「がんで死ぬか」「抗がん剤の副作用で死ぬか」どちらかしかないように感じたからです。

僕は通常医療ではなく、東洋医療や食事療法などの代替医療に賭けました。

そして、徹底的に考え、調べ、話を聞き、代替治療の道を進み始めました。

代替医療を実践しているクリニックやドクターを訪ね、本を30冊以上読み、サプリを調べ、生還者に会い：僕は様々なことをやりました。出来ることはお金をかけてすべてやりました。

その期間は約9か月に及びました。僕の心はいつも崖っぷちでした。振り返るとそこには『死』が待っています。『死』という奈落の底がいつも足元にあり、1センチでも後ずさったら真つ逆さまに転落してしまいそうな気持ちでした。ですからその「恐怖」に飲み込まれないように常に「ポジティブ」を意識し続けました。

いつも「俺は治る」「がんは消える」「がんを消す」「この戦い、負けるわけにはいかない」「勝つしかないんだ」。

しかし、人はいつも意識を集中し続けることは出来ません。ふと気づくと、ポジティブの反対のネガティブに引きずり込まれてしまいました。

そう、ポジティブとネガティブは同じ曲線の右と左なのです。右に意識を集中すると、同じエネルギーが左にも集中します。そしてそれは無意識に格納されてしまうのです。

ですのでその頃の僕はポジティブとネガティブという極端な両極を大きく揺れ動いていました。これはとても疲れましたが、本人は「サバイバル」「死ぬかもしれない」という恐怖に支配されているので、全く気付かなかったのです。ただ、本当に疲れました。

そしてだんだんと身体の具合が悪くなってきました。

ステージ4の宣告を受けたとき「年を越せるのだろうか」と思いましたが、それはなんとか実現することが出来ました。

しかし、年が明けて2017年の1月には首のリンパが腫れだしてコメ粒ほどの転移が見つかりました。代替医療クリニックのドクターからは「転移ですね」と告げられました。

1月末には左の座骨がジンジンと痛み出し、柔らかな椅子にし客座れなくなりました。

2月には左の股関節が痛み出し、足を引きずるようになりました。肺は常に圧迫されたような感じになり、大きく息をすることが困難になってきました。

しかし僕は心の中では「これは治っている証拠だ」「これは好転反応だ」と自分に言い聞かせていました。

心が少しでもネガティブに振れると、あつという間に暗闇と絶望に持っていかれそうだったので、必死でした。

3月に入ると階段を上るのがきつくなり、エスカレーターを探すようになりました。

4月には体中がだるくなり、起きていることが辛くなってきました。

しかし、僕は経過観察にはいきませんでした。最初に抗がん剤治

療を断った大病院では「うちの治療を断るのであれば、私たちがやれることはありません。経過観察も致しません。お好きなところで勝手にやってください」とのことでしたので、そのままになっていたのです。

そして5月下旬、頼んでいたサブリの配達時に、自分の名前をサインしようとしたときに、自分の名前の漢字が思い出せなくなって愕然としました。何十年も書いていた自分の名前を忘れてしまったのです。

そしてそれは「ひらがな」にも及びました。「く」がどっちに曲がっているのか分からない。「き」がどっちにふくらむのかわからない。さらに同じころ、右目の視野が狭くなりました。目が見えなくなってきたのです。「視野欠損」でした。ネットで調べるとこれは緑内障の症状でしたが「脳腫瘍」でも同じ症状がでるとのことでした。

僕は心の中で「いや違う、これは緑内障だ。きっと明日になれば治つる」と言い聞かせましたが、翌日もその翌日も、どんどん視野が狭くなっていったのでした。「これはまずいことが起きてい

る」さすがの僕もそう思い、不整脈を定期観察していただいていた循環器の先生に肺のCTを撮影してもらったところ「肺は悪くなっている」「肝臓にも転移の可能性がある」そして「脳も怪しい」とのことでした。

循環器の先生は「これはそろそろちゃんとしたところで診てもらった方がいいよ」とアドバイスをいただき、僕が通っているクリニックの紹介で本郷の東大病院へ行くことになりました。

東大病院のドクターは僕のCT画像を見ながら言いました。

「肺癌はだいぶ進んでいます、ありますが、どうぞにどうというレベルではありません。しかし、問題は脳です」

そういうと、脳のCTを指さしました。

「脳がこれだけ腫れています」

僕の脳は4分の1ほど腫れあがり、脳のしわが無くなっています。

「これだけ腫れているということ、相当大きな腫瘍があると思われ、脳は難しいところですから、来週にでも呼吸が止まるかもしれません」

呼吸が…止まる…来週？

ドクターは続けました。

「医者が100人いるとすれば、100人全員が入院を勧めるレベルです。どうされますか？」

ドクターは僕が1回標準治療を断つたいわゆる「難しい患者」であることを気に留めていただき、この提案をしてくれたのでした。「血液検査をした30分後に入院するかどうかのお返事を聞かせてください」

僕は一回退出し、血液検査をしたのちに、また診察室の前の待合の椅子に座り、天井を見上げました。

「やれることは、全部やった」

「あれもこれも、考えて、調べて、やって、やってやりつくした…」

「そして、すべてが無駄だった…」

「すべて、はね返された」

「完全なる、KO負けだ…」

しかし、そのとき僕に訪れたのは『絶望』ではなく『解放』だったのです。

それまでの僕は圧力釜の中で下から火であぶられているような状態でした。死の恐怖、未来への不安、そういった言語を絶するスト

レスの空間に閉じ込められていたのです。

それが一気に青空の下へ解放された気分でした。

気持ちいい

そして、つづいて言葉として出てきたのは

自分で考えて、調べて、計画立てて、行動して、やってやってやりつくしてダメだったんだから、もう、自分でできることは何もない

すべて、お任せするしかないじゃないか：

そうだ、もうお任せしよう

今から振り返ると、そのときの僕は『思考ゼロ』『ノーマインド』の状態だったでしょう。

とにかく、スッキリとして気持ちが良かったのです。

そしてドクターに入院すること伝え、帰宅しました。そして心配して待っていた長男に入院する経緯を伝えました。

すると長男が言いました。

「父さん、もう楽しむしかないよ」そう、そうだ、僕の人生はあと残り少ししかないだろう。でも、残りの時間を楽しむことは出来るんだ、そう、残り時間を徹底的に楽しんでやろう。

そう思ったら心の底からワクワクしてきたのでした。

それからFacebookで入院することを公表しました。僕は近しい人にしか癌であることを言っていない人でした。するとたくさんの人たちからメッセージをいただきました。自分で抱え込む必要など、最初からなかったのです。それをやっていたのは僕のエゴでした。

そして入院するまでの4日間に本当に「神の時間割」とも呼べるような不思議な出来事が次々に続きました。詳しくは僕の著書「僕は、死なない。」をお読みください。そして、その4日間が終わったころ、僕は「僕は、死なない」「僕は、治る」「僕の癌は、消える」という心の底からの確信を得たのです。

入院は6月13日でした。入院するときにはもうすでに「治る確信」がありましたから、入院時のアンケートで「病状について」「入院について」という2つのアンケート

項目の両方に「全く心配していない」にしろしをつけたとき、担当の看護師さんが不思議そうに言いました。

「これを両方ともここにしろしをつけた人、初めてなのですが、どういうご心境なのですか」

僕は笑いながら答えました。

「僕は治るって確信があるんです」きつと看護師さんは変な患者が来たと思ったでしょうね(笑)。

その後、1週間ほどの脳の放射線治療を受け終わったころの深夜にドクターがベッドサイドにニコニコしながらやってきました。

「刀根さん、生体検査の結果が出まして、刀根さんの遺伝子にALKが見つかっただけです！」

ALKとは肺腺癌患者の約4%しか持っていない珍しい遺伝子で、この遺伝子を持っていると、それに適合する分子標的薬という薬が使用できるのです。

しかし、このALKは最初の大学病院でも調べていたはず：しかし2か月半経ってもフィードバックがなかったもので、僕はつきり自分にはないものだと思っていました。

僕はドクターの言葉を聞いてガ

ツポーズをしました。その心の裏では「やっぱり：あたりまえだよ」と言っている自分もいました。

その晩遅く僕はお手洗いに出かけ、便器に座って空を見上げました。そのときふと言葉が湧いてきました。

生かされた：生き残ったのではなく、生かされた：ありがとうございます。

ありがとうございます。

僕は便器に座って泣きました。そして翌日、正式なドクターからの診察結果として僕のALKの適合率がこれまた珍しい100%であることが分かり、副作用も少なく、服用してからわずか約10日で退院できることになりました。退院の日は、これもまた何かの導きなのでしょう。24回目の結婚記念日でした。

こうして2017年7月10日に僕は妻と一緒に約1か月間入院していた東大病院を退院しました。その翌々日には南伊勢のヒーラーを訪ね、大自然の中でヒーリング

とエネルギーを充電し18日に帰省、19日にCT撮影、20日に診察となりました。

そして、20日の診察で僕のCTを見ていたドクターが言いました。「癌が顕著に消失していますね」そう、あれだけ全身にあった僕の癌が、ほとんど消えていたのです。僕の癌は上から脳(3センチ)、両目(網膜)、首のリンパ、肺のリンパ、右肺(数百個)、左肺(大きいのがゴロゴロ)、肝臓。腎臓(左右)、脾臓、頸椎・肋骨、肩甲骨・背骨・腰椎・骨盤。座骨、股関節・大腿骨と、全身癌だらけだったのです。

これらが見事にたった20日間で消失していました。

これが約3年半前に起こった、僕の癌からの生還ストーリーです。

- 僕の癌がこれだけきれいに消えてしまったことの原因は、僕なりにいくつか考えてみますと、
- ①まず、徹底した食事療法で血液がきれいになっていったこと
 - ②心の中にたまったネガティブな感情を排出したこと
 - ③すべては魂の計画だと、腑に落としたこと

④「自分」を落とし、すべてをお任せモードに切り替えたことだと考えています。

僕たちは「自我」で生きています。しかし、ほんとうの僕たちは「自我」を超えた存在です。自我は考えます。自我は執着します。自我は抵抗します。自我は判断します。なぜなら自我はこの人間社会に適合するために作られたプログラムだからです。

しかし、僕たちはいつのまにか自我≠自分になってしまい、自我のプログラムに飲み込まれて、不安や恐れ、後悔や心配にとりつかれています。

自我は思考です。そして思考は常に「過去」と「未来」に意識をフォーカスします。つまり、いま・ここにはいないのです。

僕がドクターから「来週にでも呼吸が止まる可能性があります」と言われて、思考停止に陥ったとき、僕の自我が崩壊しました。

それまで「頑張ってきた自分」「必死になってきた自分」「恐怖や不安・心配に占領されてきた自分」が一気に壊れたのです。そしてそこに現れたのは、自我

(小我)を超えた大我(全体)だったのではないのでしょうか。あの気持ちよさ、心地よさ、開放感は素晴らしいものでした。

それまで必死にしがみついていたからこそ、その開放のギャップが大きかったのではないかと思っています。

こうして僕は「自分は自我ではない」という稀有な体験をするこゝとが出来ました。自我も自分の大事な一部ですが、あくまでこの3次元世界を生きるためのプログラムであって、ほんとうの自分ではありません。そのことを知っているか、知らないかでは大きな違いがあると思います。

そして、僕だけでなく、だれもがみんなそうなのです。

自我の中で生きていると、自我は視野が狭く、すぐに行き詰まり、苦しみを生み出します。ブッダは苦しみの原因を「生・老・病・死」と解説していますが、これはすべて自我が生み出す幻想です。

「いまここに生きている」その「いま」に意識が集中し、いまの豊かさを受け取るとき、頭の中に展開していた「苦しみ」という幻想は消えていくのです。

僕たちは「大いなる全体」の一部分です。小さな自我が大いなる全体をコントロールしようとするのは不可能ですが、自我は視野が狭く、なおかつ自分しか見えていないためにそういうことをやろうとします。

自分が大いなる全体の一部であることを自覚し、余計な自我で出しゃばらず、全体にお任せして生きる、それが僕が理想としている「サレンダー」の生き方です。老子の「無為自然」ともつながる生き方だと、勝手に思っています。

僕の癌は現在は「寛解状態」ですが、ドクターは「必ず再発します」という見解を解いていません。それは僕にもドクターにも分かりません。しかし僕は先のこととは考えず、いまここを楽しくワクワクと気楽にお任せモードで生きていきたいと思っています。

その結果、あと30年くらいこの3次元世界に存在出来たら、もう本当に本望です(笑)。



いのでリラックスと無意識から来る変数（雑音）の増加を意味するのであろう。

また、通常人も訓練すれば1)～4)を得る事ができる。従って通常人に関して、密教六字真言を唱えた時の音声振動と脈波を測定し、カオス解析を行う事により、未知現象を生起させる為の前提として、雑念の減少程度（意識集中の程度、コヒーレンシー）とリラックス（無意識、雑念の増加）の程度等を判断することが出来る。つまり、密教六字音声読誦によって6個所のチャクラを活性化させ、カオスとしての「ゆらぎ」を増し、意識と無意識の両者が強く拮抗対峙する様に、訓練することが要望されている（サイ科学、Vol.31、No.1、pp.9-17、2009、等参照）。具体的な条件設定は、脳波を出来るだけ下げて（ α 波、 θ 波の境目まで）零意識（変性意識状態、ASC）になり、意識と無意識を強く拮抗対峙させた後、無意識層に刷り込んでおいたイメージ（願い事）を意識に昇らせてサイ（気）現象を生起させる事がのぞまれている。

(3) マクロPK（念力）

意識と体外にある物質とが、直接に相互作用しあう現象である。なかでも、意識による物の変化が研究対象になる。念力の存在は、古くから知られていたが、どの様な機構で生起するかについては、不明であった。著者らは、メタルペンデング、透視、念写、ゼロ磁場、パワー・スポット等の実験研究を続けてきた。それらの中から生まれたモデルに「相殺ゼロ場仮説」がある。これがより普遍的な仮説であれば、物質と意識の両者に適用されるはずである。ここでは、対象を「意識側」にうつして、検討する。

意識的な「相殺ゼロ場」とは、物質を対峙させて相殺ゼロを造る。相殺ゼロとは、（陰のちから）+（陽のちから）=0（ゼロ）をいう。離散的に（原子内電子の量子飛躍の様に）、それぞれの陰、陽の力を増すと、ゼロの値の累積が生ずる。この離散的な「ゼロの値の累積値」が閾値（不安定点、変曲点）に達すると、1) マクロとミクロ、ならびに2) 意識と物質、の変換。3) マ

クロPK発生、等の諸変化が生ずる。

1) としては、たとえば「カシミール効果」がある。物質の相殺ゼロを進めると、接触局部の接点では、マクロ現象がミクロ現象に変わる事になる。つまり、マクロの固体（例、金属）同士を対峙させて加圧すると、遂には、構成する要素（分子、原子、素粒子）先端の原子間結合力が作用し合って、逆に引力が発生して、くっつくことになる。これを「カシミール効果」と言う、これは、マクロ現象「物質」がミクロ現象「素粒子」に変わる事を示しているのであろう。

2) としては、点状のゼロ場では、意識と物質は、両者に共通した「ゼロ」の場を介して、交流しあう。ただし両者は、ともに素粒子状である。この理由として、意識は脳活動に関係があり、脳は物質である。上に述べた様に、物質のより深い所では、オーブも脳も、同様に微細化が進み、両者は素粒子状であり、また、容易に変換が生ずる、と判断できる。3) として、両者は素粒子状で、共通な性質を持つので、共振や共鳴が起き得る、つまり「マクロPK」が、生起する。仲介する物質はサイ（気）であり、素粒子群（光子群）でもある。これがシューマンレゾナンス（地球の共振7.8Hz）をキャリアーとして、両者間に同調（共鳴、共振）、を生じさせるのであろう（マクロPK）。

さきに、上記の（1-2）で触れた様に、特異現象（マクロPK）が生起した時の生体内では、「緊張とリラックス」、換言すれば「陽と陰」が同時に進行している。つまり体内でも「物質に類似した相殺ゼロ場」が形成されている事が推定できる。これらは「意識」と「無意識」。「交感神経」と「副交感神経」の拮抗対峙を意味するのであろう。

緊張とリラックスを対峙させて「相殺ゼロ」を体内に創り、これを離散的に累積する。体内に形成された「相殺ゼロ」と、体外のオーブ上の「相殺ゼロ」を同調（共振、共鳴）させる事により、意識とオーブ間の情報交換が可能になる（マクロPKが生起する）。



〒271-0047 千葉県松戸市西馬橋幸町41-506 日本サイ科学会発行
電話 047-347-3546 FAX 047-330-4091 E-mail office21@psij.mail-box.ne.jp
公式サイト <http://psi-science.org> ML申し込み先 office21@psij.mail-box.ne.jp

念写を実現する為に(その3)

栗田 慶祐 苗 鉄軍

(1) 「オーブ・たまゆら」と「念写」

筆者らは、「オーブ・たまゆら」の動画を変型して「念写像」を造り、その形成過程をビデオ撮影する事に成功している(佐藤師)。この念写成功の基には、マイクロ念写(念球)と透視の実験があり、条件設定として湿度、温度、場所、並びに変性意識状態(ASC)の調整等がある。しかし、通常人の場合には、努力しても、如何にしても成功しない場合がある。成功に向けての努力例を紹介する。

(2) 六字真言読誦による心身の強化

東洋には、体内を流れるサイ(気)を測定する方法として「脈診(手首の脈波)」がある。意識の科学的な解明は現在のところ不可能なので、著者らは、体内を流れる気(サイ)の流れを、「指尖脈波(指先)」をもちいて、体内の意識とその働きの面から検討することにした。

1000年以上もの永い期間にわたって修行(訓練)が継続されており、実技において最高と思われるチベット密教(医学)では、修行者の修行の過程でサイ能力(マクロPK等)の得られることは至極当然である、と言われている。つまり、修行・訓練を行う事により、「願い事」を得る為の超常能力が得られる。例えば、上級訓練者(南上師、Master: 佐藤禎花師、SDKなど)が密教六字真言を唱えた時の音声振動解析、——①唵(ong、オン)、②嘛(ma、マ)、③呢(ni、ニ)、④叭(bai、ベ)、⑤咪(mi、メ)、

⑥吽(hong、フン)(この内容は、身体の上部から下方へかけての6個所のチャクラに対応している)——、をカオス解析して「フラクタル次元D2」等を求める事から始める。

例えば、1) 音声の順番①-②-③-④-⑤-⑥に対応して、D2は、↓小-↑大-↓小-↑大-↓小-↑大、という様に、交互にリズムを伴って変化している。

2) この時のD2は3.82以下になる。

3) 音声と同時に測定した指尖脈波(体内の気血の循環に関係)のカオス解析結果によると、Lyapunov指数(カオスが生起するか、否かの判定)は次第に大になっている(カオスに成る)。

また、4) 指尖脈波の解析からは交感神経並びに副交感神経が、同時に、次第に増加している。これらの実施と解析を別の人達(非訓練者、通常人)にも同様に行って比較・検討したが、通常人(非訓練者)の場合には、リズムは無く、D2はそれよりも大であり、3)、4)に見られる様な変化は存在しない。なお、以上1)、2)のD2は、別に、相関次元とも言い、カオスを生み出すのに必要な変数の数を意味している。また3)のLyapunov指数は「揺らぎ」を意味し、カオスになる事への変化傾向を示している。さらに4)は、緊張とリラックスを同時に進行させる事を意味している。解釈であるが、D2の減少の傾向は、雑念の数(変数)を減少させる事により意識を集中させ、そして、意識を零にする。次のリズム変動後のD2の増加は、意識は極薄